



男女共同参画推進委員会

平成25年度男女共同参画に関する作文 入選作品

第38回

中学生の部 優秀賞

男女について思うこと

第一中学校3年 上原 綾音

「男子厨房に入らず」こんな言葉をみなさんは知っていますか。この言葉は私の祖母の時代にあつた言葉で、男の人は台所に入るなどという意味だそうです。今の時代では、男性が自ら料理をしていて、テレビでもよく男性が料理しているのを見かけます。そう考えるとなぜ昔の男性は厨房に入ってはいけなかったのでしょうか。そして昔の日本は男性だけに選挙権があたえられていました。選挙とはその一票で日本の未来が変わることです。それなのになぜ女性には選挙をすることができなかったのでしょうか。確かに男性は女性よりもたくさん働いていて、力もあると思います。女性は男性に力では勝てないとしても、男性より大変な女性しかできないことがあります。それは妊娠、出産です。子どもを産むことは女性にしかできないとても大きな仕事です。妊娠すると女性は十月十日間自分とお腹の中の命、二つの命を自分で守らなければいけません。つまり、自分の生死もかけて出産しているということです。男性も家族のために毎日仕事をしていることでしょう。でも命をかけて仕事をする男性は極めてわずかだと思えます。そう考えると女性は偉大ではないでしょうか。

今の日本は男女平等ですが、他の世界の国々ではまだまだ男女差別がある国がたくさんあります。発展途上国の女性は文字が書けない人が多いそうです。でも、その国の男性は文字が書ける人が多いのです。つまり、教育にも男女の差があるということです。さらに、女性自身がいろいろな決断ができず、自分の思い通りの人生が歩めず、家族のために自ら犠牲となることも多いそうです。

男女平等とは言っても、男性と女性では体のつくりも特性も違うため、全てが平等というわけにはいきません。なので、男性は女性の、女性は男性の理解を深め、互いに尊重することが大切だと思います。男性は積極的に家事や育児に参加すること、女性の気持ちや大変さがわかること、そして女性は社会に出て働くことにより、社会的な立場と、主婦のみでは体験、感じることでできない生きがいを得られるでしょう。また男性の素晴らしいさに改めて気付くことと思います。

全ての人間が、人間らしく生きる権利。それが男女平等につながると私は思います。先進国である日本が、発展途上国の手本となり、社会の立場や教育などを男女が平等に人間らしく生きられるように、示していくことが、私は大切だと思います。

問合せ▼

企画課女性政策係（☎内線1021）

消費生活センターからのお知らせ

太陽光発電に関するトラブルに注意！

太陽光発電システムの普及に伴い、トラブルの相談が増加しています。ソーラーシステムの中でも太陽光発電システムは、消費者の環境意識の高まり、補助金制度や固定価格買い取り制度により、今後さらに普及が進むことが予想されていますが、消費者相談の内容や対処方法について知識を持つておくことが大切です。

訪問販売で「電気を電力会社に買い取ってもらえるので、月々の支払いは相殺され、実費負担は今までと同じ電気料金だけがいい。国と地方自治体の補助金を受けられる」と説明を受け、太陽光発電システムを15年の分割払いで契約をした。契約から数ヶ月経過したが、電力会社に買い取ってもらえる電力はわずか、担当者の説明と大きく食い違いがあり、解約したいがどうしたらいいか。

【ひとことアドバイス】

☆発電量は機種や日照時間などによって変動します。電力会社の買い取り額も永久に保証されているわけではありません。過剰な説明を鵜呑みにしないで、契約をする前に、自分自身で情報収集しましょう。☆設置には、高額な費用がかかり、分割手数料等もかかることとなります。本当に必要性があるのかをよく考え検討しましょう。☆契約をするにあたっては、複数の事業者から見積もりを取り、良く比較をすることが必要です。価格の他にも設置後のメンテナンス等を含めて、納得できる業者と契約するようにならしましょう。

【まずは相談しましょう】

わからないことや困ったこと、少しでも不審に感じたら、早めに市消費生活センターにご相談ください。

相談日時▼月々金曜日（祝日を除く）

午前9時～午後4時

問合せ▼安中市消費生活センター

☎382-2228

